

## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：中島 威夫

<b>事業名</b> ：一般国道474号 三遠南信自動車道 <small>あおくずれとうげ</small> <b>青崩峠道路</b>		<b>事業</b> ： <b>区分</b> ：一般国道	<b>事業</b> ：国土交通省 <b>主体</b> ：中部地方整備局
<b>起終点</b> ：自：長野県下伊那郡南信濃村和田 <small>ながのげんしんしものいなくんみなみしなのむらわた</small> 至：静岡県磐田郡水窪町奥領家 <small>しずおかけんいわたくんみさくぼちょうおくりょうけ</small>		<b>延長</b> ：13.1km	
<b>事業概要</b> ：青崩路峠道路は、広域的な交流促進、三遠南信地域の連携強化さらには高規格幹線道路網の信頼性向上等を目的として計画された一般国道474号三遠南信自動車道のうち、現在通行不能区間である長野～静岡県境部に位置する延長13kmの道路である。			
S58年度事業化		S60年度用地着手	
H-年度都市計画決定 (H-年度変更)		S61年度工事着手	
全体事業費：約930億円		事業進捗率：18.3%	
計画交通量：3,100台/日		供用済延長：2.2km	
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 1.6	総費用：(残事業)/(事業全体) 269 / 269 億円 （事業費：233/233 億円 維持管理費：36 / 36 億円）	総便益：(残事業)/(事業全体) 421 / 421 億円 （走行時間短縮便益：397 / 397 億円 走行費用減少便益：18 / 18 億円 交通事故減少便益：6 / 6 億円）
	(残事業) 1.6		基準年： 平成15年
<b>事業の効果等</b> 国土・地域ネットワークの構築（長野、愛知、静岡間の交流・連携に資する路線を構成する） 災害への備え（国道152号の通行不能区間の解消） 他13項目に該当			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 青崩峠道路は、地域交流の促進に重要な役割を果たすことが期待されており、飯田市をはじめとする関係8市42町村の首長で構成される三遠南信道路期成同盟会より早期整備の要望を受けている。			
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成6年の矢筈・草木両トンネルの開通を契機に、地域の産業は林業から観光へ。 しかし、静岡との県境を跨ぐ交流は隣接他県に比べ低調。			
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 一般国道152号の一次改築としてL=8.0km区間を事業化しH6.7に草木トンネル関連区間供用L=2.2km。			
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 環境アセスメント実施に向けた路線設計・地質調査・環境調査等を実施中。平成20年代中頃の供用を目標。			
<b>施設の構造や工法の変更等</b> トンネルズリ（約100万m <sup>3</sup> ）を国道152号の盛土として利用することによりコスト縮減を図っている。			
対応方針		事業継続	
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
<b>事業概要図</b>			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。